

1 学校教育目標

考える子 思いやりのある子 鍛える子 よく働く子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	「子供が大切にされる学校」＝「信頼される学校」である ・子供の知を大切にせる学校（学力定着と向上、自らわかる喜びと学ぶ意欲の達成） ・子供の徳を大切にせる学校（豊かな心、思いやりの心、いじめを起こさない心の体得） ・子供の体を大切にせる学校（たくましい体、自ら鍛える意欲、心身ともに健やかに育成）
○児童・生徒像	・考 え る 子（基礎的基本的な学力と自ら学ぶ力や判断力を身に付けた子） ・思いやりのある子（多様な考えを認め合い、他を思いやる心を身に付けた子） ・鍛 え る 子（運動に親しみ、心身を鍛え、健康で安全な生活を目指す子） ・よ く 働 く 子（自己責任を果たす態度や協力する態度を身に付けた子）
○教師像	・社会人として常識のある教師（服務に厳しく、誰からも信頼される存在） ・教育公務員として専門性のある教師（児童理解、教材研究、指導技術を追究する存在） ・教育愛と使命感のある教師（特別支援教育を理解し、推進できる存在）

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

- 国語教科書繰り返し音読の継続的实施や板書方法の改善（共書きの習慣化）など、基礎学力定着の基盤となる「言葉の力（＝文章を正しく読む力）」の育成に向けて授業方法の改善に取組み成果が得られました。児童の学習の様子にも変容が見られます。引き続き各教科を通して「言葉の力」の育成を進めるとともに、研究授業を中心とする国語の授業改善（説明的文章の指導）に取り組めます。読書指導のさらなる充実が課題です
- 足立区や東京都、全国の学力調査結果の分析に基づいて、児童がつまずきやすい学習内容の指導方法工夫・改善を図ります。SP 表を活用し、①多くの児童がつまずく学習内容、②特別な学習支援が必要な児童を把握します。AI ドリル等を活用して指導方法の最適化を図り、学校全体で組織的・計画的に基礎的学習内容の定着を進めていきます。特に、学習の積み残しが顕著な児童への指導の充実を図ります。
- 各教科の授業・学級経営・学校行事の充実を通して、自己肯定感・自己有用感の向上に取り組めます。「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート調査（hyper-Q U）」の分析結果を学級経営に有効活用します。
- 校庭・体育館の改修工事が完了しました。よい環境を十分に活用して、ケガの防止・体力増進に取り組めます。
- 保護者・地域との連携・協力の在り方を工夫し、開かれた学校づくりに努めます。学校ホームページをよりアクセスしやすいメディアに改善するとともに、学校メール配信システムやタブレットを有効に活用し、保護者との協力関係を強化します。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎

2	心の健康づくり(心も体も健全育成を図る)	◎	◎	○	○	○
3	体の健康づくり(心も体も健全育成を図る)	○	○	◎	◎	◎

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
国語・算数の基礎的・基本的な学習内容の定着		令和4年2月予備調査（現学年内容） 目標値の達成率 全学年 国語 80%以上 算数 80%以上		国語 64.2% 算数 62.5%		国語、算数とも達成基準を下回った。業間、放課後等を利用した補習が課題。		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	説明的文章に関する授業の充実	全学年・国語	通年	説明的文章指導の浏一方式確立に向けて18回の授業研究を実施。	・説明的文章に関する指導の手立ての共通理解と実施 ・2月予備調査結果	・国語を担当する教員全員が研究の成果に基づく授業を実施する。 ・全学年で国語の <u>平均正答率</u> を区平均以上にする。	研究授業実施18回（浏一方式国語） ・朝学習・家庭学習での繰り返し音読 ・全文シート活用 ・単元を見通す学習 区プレ調査（2月）正答率は平均に至らず。 ・授業中の児童の主体的な学習が多く見られるようになった。	研究推進委員会を中心に一貫した研究授業ができた。浏一方式の定着をより確かにしたい。	◎

2	「言葉の力」を育てる指導の充実	全学年・全教科	通年	・全教員による共書き板書 ・「つなぎ言葉一覧表」の活用、及び、文の意味を正しく掴むためのことば指導を実施（教科を問わない）。	管理職による授業観察と指導・助言	・全教員が共書き板書と「つなぎ言葉一覧表」活用100%	・実質的な活用率 60%	・教員が言葉に対する注意深さを高めることにつながっている。 ・「つなぎ言葉一覧表」を使いやすく改善することが課題	○
3	読書活動の充実	全学年・全教科	通年	・年間2回の読書旬間毎に推薦図書リストを作成、活用する。 ・調べる学習コンクール3～6年生で参加	・学年の推薦図書を読んだ冊数 ・調べる学習コンクール入賞者数	・全員が学年の推薦図書を5冊以上読む ・コンクールへの出品数	推薦図書リストが完成。活用中。 東京都のコンクール入賞者数2名	学校図書館の利用促進、推薦図書リストの教員間共通理解が課題	◎
4	朝学習パワーアップタイム	全学年 国語・算数	通年 週3回 (火・水・金) 8時25分～8時40分	【指導体制】担任・専科教員 【取組のねらい】学習に楽しさを感じさせるとともに、学習内容の定着を図る。 【使用教材】各学年で年度当初検討する。「言葉の力」を高める学習活動や教材。 ・A Iドリルを全学級完全活用	・学力向上委員会によるカリキュラム開発と実施 ・各教室で管理職等による実施内容確認と児童観察	・A Iドリル 100%活用 ・αドリル全学級活用 ・カリキュラムに準拠した内容での完全実施	・A Iドリル 100%活用（1年を除く） ・αドリル全学級活用 ・カリキュラム検討継続	朝学習のカリキュラムは、A Iドリル・αドリル・音読のバランス最適化が課題	◎

5	放課後学習	区学力調査等で目標値未通過の児童（4層分析のCD層相当）国語・算数	通年 週3回 15時20分から（低学年は下校指導後から） 25～40分間程度	【指導体制】 月・金は学年体制、火・木は各学級学年担当の専科教員が入り担任不在時カバーする 【取組のねらい】 学習のつまずき解消 【使用教材】 ・C層児童には A I ドリルを活用し、児童のつまずき解消に努める。 ・D層児童には 教員による丁寧な個別指導を行う	C層とD層の児童の国語・算数の基礎的内容の定着（2月予備調査）	2月予備調査達成率80%以上	・特にD層の児童を対象に実施。指導目標の明確化を意識した実施。 ・2教科で達成率63.4%	・全学級に定着している。 ・効率的な実施と、働き方改革の中で、諸会議等と放課後指導のバランスが課題	◎
6	かけ算九九テスト	2年生～6年生	年間 2回7月と12月	【指導体制】 担任 【取組のねらい】 かけ算九九の完全な定着 【方法等】 75%未満の児童は担任と算数少人数指導担当者が補習する。特に2年生は、A I ドリルを活用する。1月以降専科教員等が授業を支援し個別の対応を図る。	かけ算九九テスト（9月と12月）	2年生以上学年かけ算九九満点率80%	12月実施の九九テスト満点率75%	A I ドリル他タブレットを活用した。取組みは継続する。	△

重点的な取組事項－ 2		心の健康づくり（心も体も健全育成を図る）			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
充実感・満足感の高揚と、自己肯定感（低学年）・自己有用感（高学年）の育成		児童・保護者による意識調査 肯定的回答 85%以上	児童による意識調査 肯定的回答 72.1% 保護者による意識調査 肯定的回答 68%	学校と保護者が連携して、行事等の充実を図り、充足感・満足感等を高めていくことが課題。	○
B 目標実現に向けた取組み					

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
望ましい生活習慣の確立	・児童・保護者による意識調査関連項目で肯定的回答 80%以上 ・遅刻が継続する児童を各学級 1 名以下に減少。	・「渕一の子の学習のきまり」の徹底 ・「生活調べ」実施や遅刻調査等結果を指導に活用 ・学校だよりやメール配信システム等を活用した保護者の啓発 ・月ごとの遅刻調査からのフィードバック	・生活調べ実施。挨拶が進んでできる児童が増加。 ・月ごとの遅刻調査を年間実施し指導に活用。 ・管理職や生活指導部から朝礼での講話、指導を実施。 ・健康管理や交通事故防止等についてメール配信により保護者を啓発した。	・落ち着いた雰囲気の中で教育活動が進んでいる。 ・遅刻者の減少は継続的課題。	○
児童相互、児童と教員の望ましい人間関係の構築	・児童アンケート調査関連項目で肯定的回答 80%	・「hyper-Q U」の分析結果を学級経営に活用 ・相談箱や教育相談室の活用など教育相談活動の活性化	・児童アンケート調査関連項目 肯定的回答 94.4% ・「hyper-Q U」要支援児童を把握し、担任が面談。 ・SCと管理職・担任との連携が充実している。	落ち着いた学級経営ができている。教員は人権尊重を意識した指導を継続的に実施している。	○
いじめ等の早期発見と早期解決	・いじめ等発見後 1 ヶ月以内に解決する。	・いじめ防止基本方針の徹底 ・「渕一版トラブル対応マニュアル」のフル活用	・いじめの認知以降、速やかにケース会議を実施し、事実確認、保護者との連携、支援と指導を実施できた。 ・「渕一版トラブル対応マニュアル」が定着。対応の遅れは減少。	オリ・パラレガシーを活用して講師を招くなど、道徳教育を充実させたい。	◎
不登校の未然防止と早期解決	・不登校児童を前年比 70%に減少	・教職員間連携と、SC、SSW、チャレンジ学級との連携	・不登校児童数の減少は難しかったが、各児童の生活状況改善は図られている。 ・不登校児童への支援、問題の解決に向けて、SC、チャレンジ学級、福祉事務所、児童相談所、医療機関と継続的に連携。	・リモート学習や登校支援ボランティアを活用して、児童の支援を継続する。 ・保護者との連携を強化したい。	○
特別支援教室と学級との連携推進(発達障害等の理解推進)	・学級における指導と特別支援教室の整合性と一貫性の確保に向けた校内委員会(年間 10 回以上)	・校内委員会での情報交換と指導方針の共有 ・発達障害等に関する校内研修 ・ユニバーサルデザインの活用	・校内委員会 7 回実施 ・ユニバーサルデザインについての校内研修会を実施。 ・特別な支援を必要とする児童の支援スタッフとして、空き教員が常時待機する体制を確立。	「どの児童にも子供にあった特別な支援を提供する」という意識の定着に向けて教員の力量を高めていく。	◎

重点的な取組事項－３		体の健康づくり（心も体も健全育成を図る）			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
健康についての児童・保護者の意識向上と体力向上		児童・保護者による意識調査関連項目で肯定的回答 80%以上	児童による意識調査 肯定的回答 78.3% 保護者による意識調査 肯定的回答 84.9%	概ね良好な結果を得た。休み時間の運動量を増やすことが課題。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力の向上	東京都体力調査項目で区の平均以上。	・人工芝のメリットを生かした運動量と運動時間の確保	東京都体力調査項目で区の平均以上には至らないが、人工芝を生かして校庭体育の実施回数及び休み時間の運動は増加、運動量を確保した。	体育の授業で、体力向上に向けた指導のねらいを名実化することが課題。	○
体育授業等における運動量の確保とケガの防止	・体調不良による欠席者とケガによる保健室来室者の減少	・人工芝のメリットを生かした運動量と運動時間の確保（再掲） ・持久走記録会に向けた練習の充実 ・人工芝の特性の理解と安全指導	・感染拡大は回避した。 ・児童の健康状態をメール配信し保護者との連携を図った。 ・ケガによる保健室来室児童は前年比 40%未満。 ・校庭人工芝化に起因する事故やケガは 5 名以下。	・マスクの着用、手指消毒、換気の徹底により、感染拡大は抑制できた。 ・人工芝化によって怪我が大幅に減少したと考えられる。	◎
オリンピック・パラリンピック教育の推進と充実	・児童・保護者による意識調査関連項目で肯定的回答 80%以上	・運動選手による実技指導や講演会等の実施 ・福祉や国際理解に関する学習の充実	・児童による意識調査関連項目 肯定的回答 85.8% ・保護者による意識調査関連項目 肯定的回答 64% ・パラリンピック選手を講師として招き、道徳授業を実施。（対象は 5・6 年生）	低学年も含め、人権教育や道徳教育の充実に運動選手を招くことを学校のレガシーとしていく。	○
健康づくりに関する児童と保護者の意識向上	・歯科受診率 60%以上 ・児童・保護者による意識調査 食育に関する項目で肯定的回答 80%以上	・メール配信システム等広報の活用による保護者の啓発 ・PTA や企業と連携した健康に関する学習の場の設定 ・栄養士・食育リーダー・養護教諭等の連携による食育指導の充実	・歯科受診率 50%未満 ・児童・保護者による意識調査関連項目 肯定的回答 児童 93.3% 保護者 84.9%	・児童の健康状態（インフルエンザ）をメール配信し保護者との連携を図った。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

○ 学力向上アクションプラン

【課題】

- ・全学年を通して、文を読む・書く力に課題がある。文を正しく読む力は、国語以外の教科でも学習の基礎の力となる重要な能力であるため、「言葉の力」を向上させることが最重要課題である。
- ・かけ算九九の定着に課題がみられる。

【対策】

- ・全教科の授業を通して、授業冒頭の問題提示の場面で問題をよく読み内容を取り出す力の徹底を図る。また、共書き板書を継続する（学力向上委員会）。
- ・国語の授業では、校内研究授業を通して文学的文章と説明的文章の教材を分析し、浏一方式（前掲）の定着と徹底を図る（研究推進委員会）。
- ・推薦図書リストを活用して読書活動を推進するとともに、特に高学年で「調べる学習」に学校図書館の利用を推進する（学校図書館部）。
- ・補習学習では、短い文を書く課題を出し、文を書いたり読んだりすることに慣れさせる。
- ・専科教員を各学年に配置し、担任とともに、授業間や放課後学習を活用してかけ算九九の定着を徹底する。

○ 自己肯定感・自己有用感の育成

【課題】

- ・生活規律の徹底を図り、遅刻児童を減少させることが課題である。
- ・不登校児童を減らすこととその支援の充実が課題である。

【対策】

- ・月ごとの遅刻調査結果を活用して担任等から指導を行うとともに、遅刻者の減少に向けて学校だよりやホームページ等を通して保護者と連携協力する。
- ・当該児童の生活リズムを確立し、登校に数が増加するように関係機関と連携協力するとともに、タブレット等を活用して学習を保障する。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

新型コロナウイルス感染のリスクが低減する令和5年度から、積極的に地域保護者連携による行事を充実し、児童の実感を伴った経験や、人との関わりを豊かに展開したいと考えています。子供たちが様々なことに自信をもって取り組めるように、子供たちへの声援をどうぞよろしくお願いします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

- ・開かれた学校づくり協議会による「みどりボランティア」の皆様のサポートによる栽培活動の充実、足立生物園・桑袋ビオトープ公園の支援による腐葉土づくりやビオトープ新設計画の実施等々、SDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の視点から環境教育の充実を図って参ります。
- ・開かれた学校の実現、地域家庭との連携強化に向けて、ホームページの質的改善など広報活動の充実を推進します。